

平成24年度 一般選抜中期日程／経済学科・公共マネジメント学科 外国語
出題の意図と解答の傾向

I

問2

「下線(1)はどのような内容を指しているか、具体的に日本語で述べなさい」という問題文となっている。下線が引かれている a similar arrangement はその直後に置かれた with the Philippines が示すとおり、「似たような協定」を「フィリピンとも」結ぼうとしていることがわかる。では、そうした協定の具体的な内容はというと、それは下線部が位置する文章から2文手前に記述されたインドネシアとの協定がそれに当たる。すなわち「Japan agreed to allow up to 400 nurses from Indonesia to come to Japan to work over a two-year period」が、下線(1)の協定の具体的な内容だということになる。したがって「最大400人までの看護師を受け入れ、日本の病院で2年間に渡って仕事をする(という取り決め)」あるいは「日本の病院で2年間に渡って仕事をするために、最大400人までの看護師を受け入れる(という取り決め)」が正解。

回答の傾向としては、フィリピンとの対比でインドネシアと結ばれた協定の具体的な内容が書かれている場所を見落として、「多くの外国人労働者を受け入れる」など具体性に欠ける回答になっていたり、あるいは問題の箇所の一文あとの内容「看護師の不足、老年人口の増加」など勘違いの回答が見られた。

また、具体的な場所を探し当てられていても、work over a two-year period の部分の「over」を「(二年間)にわたって」ではなく、「(二年間)以上」などと前置詞の意味を取り違えていると思われる回答も散見された。

問3

- (1) 実現の可能性が少ないと思う話者の気持ちを表す「万一の should」(万一～すれば)をうまく訳出できていない答案があまりに多かった(江川泰一郎著『英文法解説』金子書房 pp. 257～258.)。Should は倒置になっているのでそれを見抜いて欲しかったが、「～すべきである」とか、「～するはずである」という訳が散見された。「～とき」も「万一～すれば」とは若干意味が異なるので、減点とした。
- (2) 「they」をインドネシア人と訳していた答案が少なからずあった。また、「日本人看護師」も少なからずあったが、これは指示代名詞を狭くって訳しているため、減点とした。
- (3) 「Likewise」を訳せていない答案が数多く目立った。
- (4) 「see」を「見る」と訳している答案が非常に目立ったが、ここでは、「会う」とか「診てもらおう」を正解とした。ただし、「診察をしてもらおう」は看護師は医者ではないので、意識しすぎで減点とした。

- (5) 「would」を訳出できていない答案が少なからずあった。
- (6) 「be glad to see」を「喜んで～会いに行く」と訳している答案が少なからずあったが、これは正解とした。

問4 (1)

1点目は、2段落目の後半の2つの文（[B(With this in mind)], I always encourage my students to～）で明記されている。しかし、英語学習から英語以外の様々な言語の話題へという展開がつかめなかった受験生や、文章の後半ばかりに目がいてしまった受験者には、該当部分を見つけることが難しかったようだ。

本問は正確な翻訳を求める設問ではないため、上記2文の大意が回答できていれば、一定の点数を与えた。patient[患者]とgreeting[挨拶]の意味が理解できた受験生は、おおむね文の内容を理解できているようであった。ただし、筆者が推奨する理由（患者の母国語で親しく挨拶をすること[friendly greeting]で、患者を元気づけ[cheer up]、患者の回復を早めることに役立つ）を完全に説明できている回答は少数であった。また、推奨する内容について、筆者が「(英語以外のいろいろな言語の簡単な挨拶を)習得すること[to learn]」と明記しているため、「挨拶をすること」を回答したものは若干減点した。

英語の試験ではあるが、日本語の文章表現に問題がある回答が散見され、程度に応じた減点を行った。特に「患者」を「看者」と記す誤字が非常に多かった。

配点も大きく、課題文全体の流れをつかむことができたかによって、得点の差が大きく出る設問となった。

(2)

解答例

日本人看護師や医師も彼ら（海外からの看護師*）の言語や文化に関心を持ち、相互に尊重し合うことが大切であるので(20)、そのための最も効力のある方法の一つとして、彼らの言語を学習する、または少なくとも簡単な挨拶や日常役に立つ表現を学ぶ努力をすることを、提唱している。(20)

- ・[奨励していること] 英語学習の他に奨励していることは、海外からの同僚の言語を学ぶことで、全体として比較的よくできていた。
- ・[理由] 海外からの同僚の言語を学ぶことを奨励する理由について、筆者は「なぜならば～の理由である」という表現で明示していないが、「海外からの看護師は一定期間中に日本語力をつけることになっているからといって（言い換えれば、コミュニケーションの問題はなくなるからといって）、日本人看護師や医師が彼らの言語や文化に関心や関わりを持たなくてよい、ということにはならない」と述べている。即ち、日本語で用が足りるからわざわざ彼らの言語を覚えなくてもよいという態度ではなく、お互いに異なる言語や文化を尊重し合う姿勢が意義あることなのだと述べている。“mutual respect”が大切な概念であることは最後の段落にもあるように明らかなことであるが、そうするため

に、職場で外国からの同僚たちとの間で相互に信頼し合える関係を作るために、何をすればよいのかということについて彼らが日本人看護師の言語を学ぶように、あなた方も彼らの言語を学ぶことが最も有効な方法の一つであると、筆者は自分の看護学生に奨めている。

- ・解答の傾向としては、大体においてこのような内容理解に沿った解答を正解とし、内容の正確さ、適切さ、論旨の整合性に基づいて採点した。あまりに簡単な説明（例えば、「相互理解は重要だから [大切だから]」など）の場合は、程度に応じて減点した。誤りで顕著だったのが、colleague を college と間違えて、「外国（または、海外）の大学」と理解しているものだった。それゆえとも推測されるが、native language を「現地、または土着の言語（すなわち、大学がある土地で使われている言語）」と捉え、全体として「(多分、日本人看護師が) 外国の大学でその地の言語を（あるいは、その言語での簡単な挨拶などを）学ぶ」という内容になっている。*文中では overseas nurses, foreign healthcare workers, foreign nurses, overseas colleague などが使われている。解答には外国人看護学生、外国人の同僚などヴァリエーションがあった。広く、海外から日本へやって医療に従事している人、と理解できれば正解とした。
- ・誤字（「海人」 → 「外人」か?）、文法上の問題（例えば、助詞の誤り）など日本語運用上の問題があり、中には解答内容の理解を難しくする場合もあった。

II

問 1

(1) 私は他の誰もそれで責めようとは思わない。(7点)

<解答例>

I do not try to [won' t] blame anyone else for it.

<コメント>

I do not try to blame anyone else for it. という解答が実際にあったのが不思議で、I don' t think I' ll ~. とか I won' t ~. という形の答えが圧倒的に多かった（勿論正解）。「責める」は blame か accuse を使い、後にくる前置詞をそれぞれ for と of にすることを期待したが、違った前置詞を使っている例も多く見受けられた。また、blame を「責められる」という意味で使ったり、「責める」という意味で使っても、直ぐ後に for とか to とかの前置詞を付けて自動詞として使っている例が目立った。

(2) 私の友達のマデリンは辞書を買っただけで生計を立てた世界でただひとりの人だ。(15点)

<解答例>

... my friend Madeline is the only person in the world who ever made her [a] living solely from buying and selling dictionaries.

「私の友達のマデリン」を Madeline of my friend とか my friend' s Madeline と表現している例が余りにも多かった。the only は an[a] only や only a の形がかなり見られた。一番驚いたのは、圧倒的多数が「売買するだけで」の部分で、動名詞あるいは現在分詞ではなく不定詞を使っていたことである。不定詞の特性がつかめていないようである。また、「売買」の意味が正確に分かっていないようで、sell か buy の一方しか使っていない解答が結構あった。そして、問題文を全部読んでいないせいか、Madeline を Maderin としたり、男と間違えて his で受けている例も多く見られた。同じく代名詞だが、she の所有格を hers とか her' s、さらに she' s にしている解答も珍しくなかった。それから、make one' s living という表現を、one' s の部分を変えないでそのまま使っている解答も多かった（これは予想通り）。単語の綴り間違いでは、dictionaly が多かったが、時々dectionary もあった。他に person が時々parson になっている例があった。副詞の位置では、in the world を文の最後に持ってきている例が非常に多かった。

(3) 彼女は少なくとも私の 20 倍は持っている。(8 点)

<解答例>

She has at least twenty times as many as I do.

<コメント>

twenty times as many as ～か twenty times more than ～の形で表現できることを知っている者と、知らない者との差がはっきり出た。ただ、これらの形を知っていても、She has it[them] at least ～. のように代名詞を入れている例が頻繁に見られた。

問 2 (30 点)

<解答例>

I would choose volunteering at a local nursing home. There are two reasons for my choice. First, I want to learn from elderly people. I think elderly people have much to teach young people about the past and about life in general. If I volunteer at a nursing home, I think I would have many chances to talk with elderly people and learn from them. Second, I want to give back to elderly people. Elderly people have done much for our society. Through volunteering at a nursing home, I want to show my appreciation to them. It is for these two reasons that I would volunteer at a nursing home.

【採点基準】

この問題を通じて受験生は意見や理由を明確に述べられるかどうか、段落を論理的に構成できるかどうか、また受験生の英語が十分に通じるかどうかをみたいと思った。「内容」、「構成」と「言語力」という 3 つの項目をみながら、30 点満点で解答を総体的に採点した。「内容」については、意見や理由を明確に述べているかどうかの他に、理由を十分に説

明しているかどうか、無関係なことを書いていないかどうかを中心にみた。「構成」については、解答は導入文・本体・結論で構成されているかどうか、discourse markers (first, second, in conclusion など)や接続詞が正確になおかつ適切に使われているかどうかを中心にみた。「言語力」については、解答を読んで意味が理解できるかどうか、文法・語彙・綴り・句読点が正確に適切に使われているかどうか、解答者は難しい言い回しや語彙を使おうとしているかどのくらい正確に使えたか、を中心にみた。

【採点講評】

① 良くできている解答はやはり「内容」、「構成」、「言語力」の三つの評価項目においてよくでき、一つか一つ以上の項目において優れていた。優れているとは言えないがこの問題の合格基準に満たしている解答は英語が通じ、改善の余地があるものの、英語で段落を構成する力が一応あると評価できるものだった。この問題の合格基準に満たしていない解答は英語が通じなく、また「内容」および「構成」の面において問題があった。

「内容」において問題のある解答は、理由を全くまたは十分に説明していないものや無関係な内容を書いているものだった。理由を述べることにとどめず、理由を十分に説明する必要がある。

「構成」において問題のある解答は、discourse markers を使っていないもの、または discourse markers を使おうとしたものの正確に使えていないものだった。殆どの解答は discourse markers を用いたが、不正確に使っている解答が目立った。不正確に使っている例を挙げると、“One reason is that”と書くべきところを、“One reason,”と書いた解答が非常に多かった。また、本体を“because”から始まった解答も多かった。このような書き方は「言語力」と「構成」の両面において問題である。話し言葉と違って、書き言葉では、理由しか述べていない文章を because から始めることができない。また、本体で理由を二つ挙げるのに本体を because から始めると、読む側は本体で理由が一つだけ紹介されると予想してしまうため、「構成」の面においても問題になる。Discourse markers を正確に使うことは「構成」と「言語力」の両面において重要なことなので、ぜひ使い方を十分に確認してもらいたいと思う。最後に、減点対象にしなかったが、文章ごとに改行する解答、また導入文の後や理由の後に改行する解答が多かった。厳密に言えば、英語の段落は段落内に改行をしない。段落内は改行をせずに続けて書き、段落と段落の間に改行する若しくは一行をあけることは正しい書き方である。このルールをぜひ守ってもらいたいと思う。

「言語力」において問題のある解答は英語が全く通じない、また部分的に通じないものだった。基礎的な英語力を磨く必要があるだろう。それから、英語が通じるものの、綴りがめちゃくちゃな解答が非常に多かった。設問に書いてある綴りを解答に間違えて書くことや解答に同じ言葉をいくつかの（間違っている）綴りで書くはとてももったいないミスであり、もっと注意して書くべきである。綴りを間違えてしまうと、意味不明になったり、

別の意味になったりすることがある。単語を勉強する際、綴りにも注意を十分に払ってもらいたいと思う。最後に、難しい言い回しや語彙を使おうとしたが失敗してしまったものもあった。意味が通じれば厳しくは減点しなかったが、新しいフレーズを勉強するとき、そのフレーズだけではなく、使い方も覚えよう。今年はなぜか多くの解答者は“go a long way toward”（～に大いに役立つ）という言い回しを使った。3人に1人か2人くらいの解答者はこの言い回しを使ったが、今までこのようなことはなかったのが驚いた。だが、残念なことに正確に使えていない、または適切に使えていない解答がやや目立ってしまった。せっかく勉強したから使いたいと思う言い回しがあっても、使い方を忘れてたり、使う必要がないのに無理やり使ったりすることはやめた方が良さだろう。

最後に、一言。解答を書き終えたらぜひ目を通し、文法ミスや綴りミスなどを直してもらいたいと思う。不注意によるミスは減点につながるので非常にもったいないと思う。

② Here are some of the more common problems I encountered, in no particular order of occurrence.

- Strange expressions or expressions that are used inappropriately.
- Spelling: Aside from the usual spelling errors, some spelled the same word differently as their writing progressed. More annoying is the misspelling of words that appear in the test question.
- Fragmented sentences: Sentences starting with conjunctions (and, so, but, because...).
- Rambling sentences: However, there were not as many instances as in the past.
- Poor writing structure: Starting a new line for each sentence, or for each point.
- Prepositions: Prepositions were either missing completely, or incorrectly used.
- Pronouns: Understanding what is being referred to is impossible; incorrect use of pronouns.
- Supporting statements are not directly related to the point being made.
- Repeating the same idea using different words and expressions to fill up the space required.
- Verb tenses: Incorrect use, as well as complete inconsistency in tenses (e.g. using past and future in the same sentence).
- Finishing with “Thank You”.
- Providing no support for reasons, or having only limited explanation of the idea.

On a positive note, I had a general sense of better writing being produced than last year. I had some very well written responses that were near perfect. There were fewer borderline pass/fail cases than previously. Some of the positive points were:

Originality – There were a variety of starting sentences, not just copies of the stated problem. There were also some interesting supporting ideas to chosen responses. Some students even created new words that were well used in the situation.

Use of various support types – There were several instances of support that provided numerous examples including personal experience, comparison to other options, as well as good and bad points of their choice.

Fully developed – Several responses were well developed within the word limit.